

9 青少年補導状況

(単位:人)

区分	総数	怠学	飲酒	喫煙	深夜徘徊	暴走行為	不良交友	その他
小学生	-	-	-	-	-	-	-	-
中学生	9(3)	2(2)	-	5(1)	2(-)	-	-	-
高校生	187(44)	18(12)	3(-)	56(7)	75(10)	33(15)	1(-)	1(-)
大学生	-	-	-	-	-	-	-	-
その他学生	3(-)	-	-	-	3(-)	-	-	-
有職者	31(7)	-	-	12(2)	19(5)	-	-	-
無職者	41(5)	-	-	7(-)	31(5)	3(-)	-	-

注1)平成20年次常総警察署における常総市管内
注2) ()内は女子で、内数

資料:常総警察署

出火原因は放火が最も多い

主な出火原因を見ると、放火、こんろ、たばこ、放火の疑いが上位1~4位となっており、若干の差をおいてたき火がこれに続く。2007年では「放火」による火災が6,558件で、全件数の12.0%を占めている。「放火の疑い」を含めると放火は全火災の20.4%にも上る。都道府県ごとの出火率(人口1万人当たりの出火件数)のデータを見ると、全国平均が4.30、高い所では6を超える値を出している中で、富山県と京都はそれぞれ2.28、2.64と非常に低い比率になっている。

救急搬送人員の半数以上は軽症傷病者

救急自動車の出場件数は著しい増加を続け、年間出場件数は2006年には約524万件に上った。ところが、「消防白書」には、実際に救急搬送された人のうち、入院加療を必要としない「軽症傷病者及びその他」の割合は52.0%に上るという報告が記載されている。このような出場要請は、119番へのいたずら通報と合わせ、救急車の適正な利用を妨げる重大な要因となっている。

(財)日本統計協会「統計でみる日本2009」より